

令和元年度 水浴場開設中 海水浴場の水質調査結果

1. 概要

令和元年度の水浴場開設中の水質について、須磨海水浴場（以下、「須磨」という。）及びアジュール舞子海水浴場（以下、「アジュール舞子」という。）において調査を行いました。

調査結果を環境省の水浴場水質判定基準により評価したところ、須磨は「可 水質B」、アジュール舞子は「適 水質AA」と判定され、海水浴場として適当な水質でした。併せて、病原性大腸菌 0-157 の検査も実施しましたが、須磨、アジュール舞子ともに検出されませんでした。

2. 水浴場水質調査結果

(1) 調査日 令和元年7月16日、29日の2日間、1日につき2回（午前、午後）

(2) 調査地点 須磨 3地点、アジュール舞子 1地点

(3) 調査結果

海水浴場名称	ふん便性大腸菌群数 (個/100mL) *	油膜の有無	COD (mg/L)	透明度	総合判定
須磨	不検出	無	4.4	全透 (1m以上)	可 水質B
アジュール舞子	不検出	無	1.6	全透 (1m以上)	適 水質AA

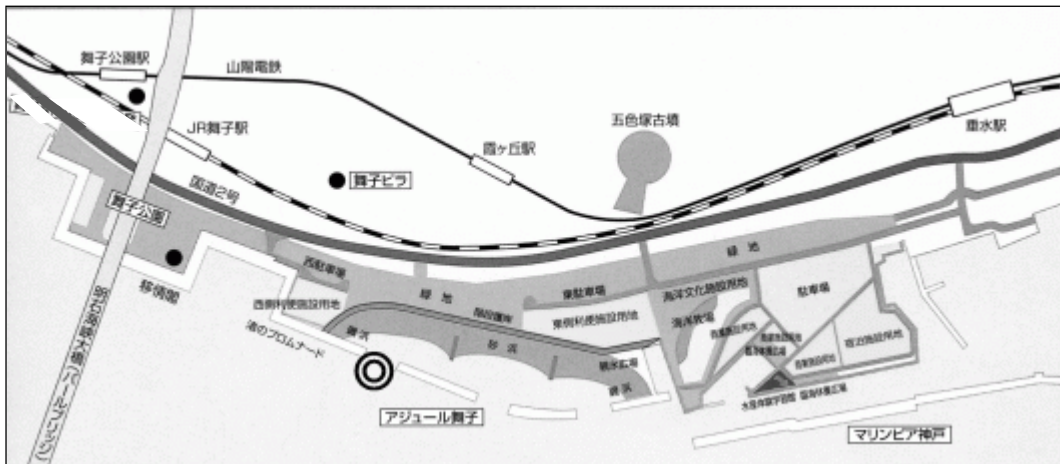
* : 検出下限 (2 個/100 mL) 未満は「不検出」と標記

3. 調査地点図

(1) 須磨海水浴場 ◎ : 調査地点



(2) アジュール舞子海水浴場 ◎：調査地点



4. 参考資料等

(1) 用語解説

- ・ COD (化学的酸素要求量 : chemical oxygen demand)

CODは、水中の汚濁物質（主として有機物）を化学的に酸化するために必要な酸素量をいう。海域及び湖沼における有機物などによる水質汚濁の指標として採用されており、水中に有機物等が多いほど、高い数値となる。

- ・ ふん便性大腸菌群数

人畜のふん便に関する汚染の指標として用いられている。ふん便性大腸菌群数が多く検出されるほど、その水は人畜のふん便によって汚染されている可能性が高い。

- ・ 透明度

直径 30cm の白色円板を水中に沈めて見えなくなる深さと、次にゆっくり引き上げて見え始める深さの平均を求めたもの。

(2) 環境省の水浴場水質判定基準

区分	ふん便性大腸菌群数 (個/100mL)	油膜の有無	COD (mg/L)	透明度
適	水質 A A 不検出 (検出下限 2 個/100mL)	油膜が認められない	2mg/L 以下	全透 (1m 以上)
	水質 A 100 個/100mL 以下	油膜が認められない	2mg/L 以下	全透 (1m 以上)
可	水質 B 400 個/100mL 以下	常時は 油膜が認められない	5mg/L 以下	1m 未満 ~50cm 以上
	水質 C 1,000 個/100mL 以下	常時は 油膜が認められない	8mg/L 以下	1m 未満 ~50cm 以上
不適	1,000 個/100mL を 超えるもの	常時油膜が認められる	8mg/L 超	50cm 未満

(3) 水質の経年変化

・須磨海水浴場（水浴場開設中）

年度	ふん便性大腸菌群数 (個/100mL)	油膜の 有無	COD (mg/L)	透明度	総合判定
平成20年度	17	無	2.6	1以上	可 水質B
平成21年度	14	無	3.5	1以上	可 水質B
平成22年度	54	無	4.2	1以上	可 水質B
平成23年度	11	無	4.1	1以上	可 水質B
平成24年度	5	無	2.9	1以上	可 水質B
平成25年度	2	無	2.4	1以上	可 水質B
平成26年度	40	無	2.9	1以上	可 水質B
平成27年度	20	無	2.0	1以上	適 水質A
平成28年度	3	無	1.8	1以上	適 水質A
平成29年度	5	無	2.6	全透 (1m以上)	可 水質B
平成30年度	3	無	3.4	全透 (1m以上)	可 水質B

・アジュール舞子海水浴場（水浴場開設中）

年度	ふん便性大腸菌群数 (個/100mL)	油膜の 有無	COD (mg/L)	透明度	総合判定
平成20年度	12	無	1.7	1以上	適 水質A
平成21年度	6	無	2.0	1以上	適 水質A
平成22年度	2	無	2.0	1以上	適 水質A
平成23年度	11	無	1.6	1以上	適 水質A
平成24年度	不検出	無	2.0	1以上	適 水質A A
平成25年度	2	無	1.4	1以上	適 水質A
平成26年度	2	無	1.9	1以上	適 水質A
平成27年度	4	無	1.3	1以上	適 水質A
平成28年度	6	無	1.6	1以上	適 水質A
平成29年度	10	無	2.0	全透 (1m以上)	適 水質A
平成30年度	不検出	無	1.9	全透 (1m以上)	適 水質A A